

# 体育

## ○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

### ◆ 各種の運動の特性に応じた体育の授業づくり

6つの運動領域における各種の運動は、楽しみ方や解決すべき課題やその解決方法が異なる。そのため、各種の運動で得られる楽しさや喜び、そこで解決すべき課題、それらの解決方法に応じた行い方を理解することができるようにする。また、それらの理解は、各種の運動の基本的な動きや技能を身に付けることに効果的である。

### ◆ 3つの資質・能力をバランスよく育む学習過程の工夫

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力とは、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つである。これらの資質・能力を育成するためには、児童の発達の段階、能力や適性、興味や関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待つ	語らせないで	認め励ます
<p>■ <b>場やルールの工夫</b></p> <p>苦手な児童の実態を踏まえた、簡単な場やルールの設定</p> <p>◇ <b>手立ての例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔らかいボールを使う</li> <li>・ コートの広さを狭くする</li> <li>・ 簡易化したゲームを行う</li> <li>・ 低学年の運動遊びを基にした授業づくりを行う</li> <li>・ 児童が自らルールや場を工夫するまで「待つ」</li> </ul>	<p>■ <b>「みる」「支える」「知る」の多様な関わり方</b></p> <p>「すること」だけでなく、「みる、支える、知る」の視点を持ち、課題解決することができる学習過程</p> <p>◇ <b>手立ての例</b></p> <p>友達が運動している様子について、「みる」視点や「みる」場所を明確にしておく</p>	<p>■ <b>「認め励ます」機会を増やす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「できる」ようになる過程を「認め励ます」</li> <li>・ チームの一員としての所属感を高める工夫</li> </ul> <p>◇ <b>手立ての例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スモールステップの学習にする</li> <li>・ チームの友達同士で 認め合う場の設定</li> </ul>

運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ることが大切です。その際、共生の視点を重視して改善を図るようにしましょう。



小学校体育（運動領域）指導の手引（スポーツ庁 HP）



[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop04/list/jsa\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00003.htm)

## ICTの活用について

### ○ 自己の課題を見付ける例

- ・ 自己の運動の様子について、ICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付けること。
- ・ 過去の自分の記録や平均値等と比較して自分の伸びを実感すること。

### ○ 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶ例

- ・ 作戦を共有するために、ICT機器を作戦ボードとして活用すること。

### ○ 自己や仲間の考えたことを他者に伝える例

- ・ 自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、記録した動画などを使って、他者に伝えること。

体育・保健体育の指導におけるICTの活用について（文部科学省 HP）



[https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt\\_jogai01-000009772\\_10.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-000009772_10.pdf)